

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 25 日

札幌市立 南の沢小学校

1 今年度の重点目標

一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校の創造

2 本年度の経営方針

「児童支援の推進」「課題探究的な学習の推進」「自治的な活動の推進」「地域・外部機関との連携の推進」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	考える子 美しい心の子 仲のよい子 強い子	子どもが「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに取り組んできたか。	A	教育活動全体を通して、「子どもの声を聴く」ということを大切にできた。子どもだけではなく、保護者の悩みや困りにも耳を傾けたり、SCやSSWにつないだりと関わってきた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		保護者や地域の皆様と学校がつながりを持ち続け、連携していくことは、児童の心を豊かに育てる大切な基盤になると考えている。学年が上がるにつれて、児童が心のバランスを保つことが難しくなる場合もあるため、学校、保護者、地域、関係機関などが情報を共有しながら協力していくことがより一層重要になる。これからも、児童を温かく見守り続けていきたい。				

人間尊重の教育	児童支援の推進	子どもたちが安心して学校に通うことができる環境づくりに努めてきたか。	A	シャボテンログや児童観察によって、子どもたちの心の声を察知し、即時対応、情報共有、チームでの解決と動いていったことが児童の安心につながっていったと考える。また、SCやSSW、学びのサポーターとの連携を図り、複数で児童を見守ることに努めてきた。	A	A
「学ぶ力」の育成	子どもの声を引き出す	自分の考えや思いを進んで発表するようになってきたか。	B	手を挙げて発表する以外にも様々な方法をとってきた。しかし、アンケートによると約3割の子どもたちが苦しさを感じると回答していた。発表のハードルを下げたり、安心して発表できる環境をつくらせたり、小さな成功体験により自信をもてるようにしたりと、苦手な子にスポットを当てた対応に努める。	A	A
「豊かな心」の育成	聴き合う集団づくり	「話を聞く」ことの大切さを教え、継続して指導してきたか。	A	9割を超える子どもたちが、「相手を見て話を聞いた」「口を閉じて最後まで話を聞いた」「クラスの人たちは自分の話をいつも最後まで聞いてくれる」と回答していた。次年度も、「話を聞く」ことの大切さを伝え、徹底していく。	A	A
「健やかな体」の育成	「健やかな体」育成プログラムの実施	体を動かすことが楽しいと感じるように、運動の機会を設定してきたか。	A	1週間に一度、朝縄跳びの時間を設定したり、体育の時間の導入時に縄跳び運動を取り入れたり、学習カードを使って目標をもって取り組んだり、縄跳び運動を中心として運動の機会を充実させていった。その成果を発表する場として、9月に運動発表会を開催した。次年度は、運動発表会後も継続して取り組めるように、学習カードの改善を図る。	A	A
自治的な活動	委員会活動の充実	委員会では、「楽しい」と思ってもらえるような活動を進めてきたか。	A	委員会を通して、子どもたちが「～したい」と意欲をもつことや、自分たちで考えて動くこと、異学年がつながることを大切にできた。子どもの声を吸い上げ、それをもとに所属を決めたり活動内容を考えたりして企画を子どもが実施してきたことで、多くの子どもの「楽しさ」につながっていったと考える。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		授業中挙手による発表だけでなく、子どもの何気ないつぶやきも取り上げていくとよい。ペアや小グループでの話し合いで自信をつけさせたり、タブレットや黒板のネームカード等を用いて互いの考えの異同を明らかにしたりする取組をより一層進め、さらに子どもの声を引き出すことができるとよい。学習場面だけでなく、日常生活の中で子どもの声に耳を傾けたり、心の声に気付いたりしていくことを今後も大切にしてほしい。学力向上は、中学校と共通の課題であるので、どのように育てていくかとも探っていかねばならない。				

学校独自に設定する分野	働き方改革	情報共有の取組	A	Googleチャットを効果的に活用し、教室と職員室や保健室との即時的な情報共有を進めており、学級担任が教室にいながらも、児童の登校の確認等ができた。	A	A
		少人数指導 専科指導	A	中・高学年における少人数指導、専科指導等に取り組む、時間的な余裕を生み出しながらの教職員間の児童理解の促進や、授業準備・学習成果の共有等、日常業務の効率化が進んでいる。	A	A
		保護者や地域への情報発信	A	学校ホームページや「すぐる」を活用し、保護者や地域への効果的な情報発信が可能となっている。業務改善に取り組んでいる。今後も業務内容の精選を図り、効果的かつ質の高い教育を提供できるようにしていく。	A	A

学校関係者評価委員会による意見		コロナへの対応が終わり、保護者や地域の方々为学校の中に入る日常が戻ってきており、学校教育の有り様が見えるようになってきた。子どもの安心・安全な学校生活の確立のため、教職員では人員的に不足するところがあれば、PTAや地域で支援していきたい。 生活科の学習で南沢福祉会館を訪れたり、総合的な学習の時間で南沢のシンボルであるラベンダーを扱ったりして、地域に密着した学習展開の工夫が見られ、地域としても喜ばしく思っている。今後もこのような地域とのつながりを意識した実践をお願いしたい。				
-----------------	--	---	--	--	--	--